

政策整理番号 17

評価シート(B)

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農地整備課
政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化		

A - 3 - 1 施策の有効性:規則 § 6 3号

有効 概ね有効 課題有

【政策評価指標達成状況から】有効  
 ・指標名:みやぎ産品認知度・シェア(農畜産物(生産額20億円以上の品目数)) 達成度 A  
 ・(達成状況の背景)生産基盤の整備等と高品質の生産に向けた技術支援や、園芸施設の大型化が進んでいる。  
 ・(達成度から見た有効性)平成15年に異常気象による冷害災害があり、米などの生産額が前年下回ったが、園芸施設の整備等により、目標の10品目を達成している。

【政策満足度から】有効  
 ・満足度は過去3回60点であることから、施策は有効と認められる。

【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効  
 ・H15年度の冷害を教訓として、平成16年度から稲作経営の安定を図ることを最重点目標として、宮城米ブランド確立と生産、流通、販売力の強化を展開、また晩期栽培等の取り組み等から、H16は水稲作況指数108と全国一高いものとなった。  
 ・H16の大豆、麦の作付けについては、大豆9,380haで全国2位、六条大麦1,660haで全国4位となっており、基盤整備等の効果が認められる。

【総括】  
 ・政策評価達成度、政策満足度、社会経済情勢等から効果があり、本施策は有効と認められる。  
 【その他特記事項】

施策を構成する事業の事業番号と種別

事業番号	種別	事業名	事業番号	種別	事業名
1	主	競争力のある水田農業推進事業	6		
2	重	みやぎの水田農業改革支援事業	7		
3	重	米ビジネス推進事業	8		
4			9		
5			10		

主:宮城県総合計画第 期実施計画に掲載されている「主要事業」 重:重点事業のうち主要事業以外の事業

B - 1 施策実現にむけた県関与の適切性と事業群設定の妥当性:規則 § 6 1号, 4号

適切 概ね適切 課題有

【国、市町村、民間団体との役割分担】適切  
 ・(国)米政策改革大綱,新たな麦政策大綱,新たな大豆政策大綱,水田の利用を中心とした土地利用型農業活性化大綱の施策実現に関して,中心的な役割を担っている。  
 ・(県)県水田農業改革方針,県麦類・大豆生産振興指針の基本施策の策定,経営対育成基盤事業等のストック形成,宮城米づくり,米ビジネス推進の支援・普及啓発について中心的役割を担っている。  
 ・(市町村)生産対策と流通対策の支援,普及啓発等について役割を担っている。  
 ・(民間団体)民間団体(JA),事業主体として転作作物関連施設・設備整備,麦大豆関連施設整備等のストック形成を担っている。  
 ・本施策に係る事業群は,上記役割分担に沿って設定・実施されており県の関与は適切である。

【施策目的を踏まえた事業か】適切  
 ・産地間競争を勝ち抜き,消費者ニーズに応える高品質で安全・安心な米・麦・大豆の低コスト生産性向上のための,米づくり推進事業,経営体育成基盤整備事業,みやぎ米需要創出支援事業等の構成となっており,全て施策実現するため必要な事業である。

【事業間で重複や矛盾がないか】適切  
 ・事業対象の業種によりその対策は異なるため,重複や目的が矛盾しない。

【社会経済情勢に適応した事業か】適切  
 ・農産物の価格も低減傾向であるが,食品や農畜産物等に対する安全で安心への消費者・事業者ニーズが高まっているところから,対応した事業である。

【施策重視度と満足度のかい離が大きいか】(事業の必要性)適切  
 ・重視度80点で満足度60点である,乖離度は20と高い水準であるところからも,県民も優先的に進めるべきと判断される。

【総括】  
 ・施策目的,県の役割分担,事業体系,社会情勢,県民満足度調査の推移から判断して本施策の事業設定は適切と判断する。

# 評価シート(B)

政策整理番号 17

施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化
------	---	-----	-------------------

## B - 2 事業群の有効性:規則 § 6 2号

有効 概ね有効 課題有

<p>【施策満足度から】有効 ・施策満足度過去3回60点と高い。</p> <p>【政策評価指標達成状況から】有効 「政策評価指標分析カード(4)ア」から抜粋 ・みやぎ産品認知度・シェア(農畜産物(生産額20億円以上の品目数)については、米、大豆等の10品目である。H15の異常気象による冷害で全体的に生産額は下回ったもの、10品目は達成した。</p> <p>【社会経済情勢を示すデータの推移から】有効 ・H15の異常気象の教訓を生かし、気象変動に強い稲作推進したところから、晩期栽培面積が前年より大幅(562haから8283ha)に増えている。</p> <p>【業績指標推移から】有効 ・米づくり推進事業に基づく、上位等級指数、経営体育成基盤整備事業による面積の増、気象変動稲作推進事業による取り組み面積の増などの実績となっている。</p> <p>【成果指標推移から】有効 ・稲作作況指数、汎用化水田整備等による麦・大豆の作付け面積の増など、施策の目指す方向に向かっている。</p>
<p>【総括】 ・施策満足度からも事業群は有効と認められる、また、産地間競争が激化しているが、業務指標推移等からも米・麦・大豆の生産は順調であることから、事業群は有効と判定する。</p>

## B - 3 事業群の効率性:規則 § 6 3号

効率的 概ね効率的 課題有

<p>【施策満足度 業績指標・成果指標】効率的 ・満足度は、過去3年60点と高く、業績指標・成果指標とも関連して効率的と評価される。</p> <p>【政策評価指標達成度 業績指標・成果指標】効率的 ・政策指標は、H15の異常気象災害より影響があったが、施策の目指す方向に推移しており、業績・成果指標とも関連して効率的と評価される。</p> <p>【社会経済情勢データ 業績指標・成果指標】効率的 ・H15の異常気象の教訓を生かし、気象変動に強い稲作推進をしたところから、晩期栽培面積が前年より大幅(562haから8283ha)に増えており、業績・成果指標とも関連して効率的に進んでいる。</p> <p>【事業費に対する業績指標の割合(効率性指標)が適切か】概ね効率的 ・米の上位等級の指数は、80と高い、また汎用化水田の整備率は59%と前年より2ポイントの増、H16の新規事業のみやぎ米需要創出支援事業として取り組んだアイテム販売店舗数は、44箇所となっている。効率性指標については、全体的に高まっており効率的に実施されたものと判断される。</p>
<p>【総括】 ・満足度は高く、政策評価指標等は適切に施策の目指す方向に進んでおり、事業群として効率的に実施されていると判定する。 ・主要農産物の安定供給を図るためには、ほ場整備等のハードと技術支援を一体的に行うことが効率的と判定される。</p>

## B 施策評価(総括):規則 § 6

適切 概ね適切 課題有

<p>・輸入農産物が増加する中、価格も停滞しており、指標値の飛躍的改善は望みがたい状況にあるが、これを少しでも向上させるためには、輸入農産物を念頭に置いた施策の展開とシステムの構築が不可欠であり、県としても国等関係機関に積極的に働きかける必要がある。</p> <p>・こうした中、平成13年度から輸入急増6品目を対象に産地強化対策事業がスタートしており、一定の効果が期待される。</p> <p>・また、県営ほ整備事業(担い手型)の面整備との連携により、米、麦、大豆生産の低コスト化の効果が期待される。以上から事業群については概ね適切に実施されたものと評価される。</p>
---

政策評価指標分析カード(整理番号1)

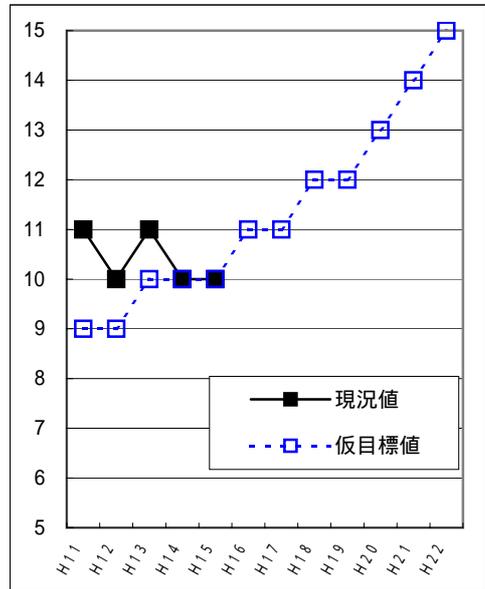
政策整理番号 17

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農地整備課
政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化		

(1) 政策評価指標の推移

政策評価指標名		単位						
みやぎ産品認知度・シェア(農畜産物(生産額20億円以上の品目数))		品目						
目標値	難易度	H17	11		H22	15		
評価年	初期値	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
測定年	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	
現況値 (達成度判定値)	9		11	10	11	10	10	
仮目標値		9	9	10	10	10	10	11
達成度			A	A	A	A	A	

政策評価指標値の推移(グラフ)



難易度: (トレンド型目標 実現が可能), (中間型目標 実現が困難), (チャレンジ型目標 実現がかなり困難)

(2) 指標の選定理由

・産地間競争等市場環境の厳しさが増す中で、マーケティングの強化及び生産体制の整備等により本県産品の生産拡大と認知度を向上させ、他産地との差別化を図ることが、本県産業の競争力を強めるため重要であると考え選定した。

(3) 施策満足度の推移

施策満足度 (単位:点)	年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
	施策重視度 A	-		80	80	80						
	施策満足度 B	-		60	60	60						
	かい離 A-B	-		20	20	20						

(4) 政策評価指標の妥当性分析

ア 達成状況の背景(未達成の場合はその理由等)・今後の見通し	イ 達成度と施策満足度の推移の相関
達成度:A ・生産額20億円以上の品目は、米、大豆、肉用牛、生牛乳、鶏卵、豚、ブロッコリー、いちご、きゅうり、ほうれんそう、の10品目である。 ・H15は異常気象災害のために全体的に生産額が、前年より下回ったが、仮目標値に達した。 ・水稲については、晩期栽培など、気象変動に対応した栽培技術の普及により生産量と品質の高位安定化が図られる。	判定:・・・ ・達成度は過去3回Aで、施策満足度も過去3回と同じである。 ・このことから、達成度と満足度の相関は必ずしもあるとはいえない。  相関の判定: (正の相関)、×(負の相関)、...(判定不能 満足度あるいは達成度の変動がない、または達成度が判定不能のため相関の検証ができない場合等)

(5) 政策評価指標の妥当性の検証(総括)

継続 要検討

[施策の有効性を評価する上で適切な指標か]  
 ・本県産米などの競争力を向上させるためには高品質化と低コストとともに、安定生産も重要であり生産額に係る指標は必要である。なお、現在の設定品目については、施策全体として、本県農畜産物全体の向上を目指し設定したものである。

### 事業分析カード(業績)

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農地整備課
政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化		

活動			左記活動(事業)によりもたらされた結果			
事業番号	事業名 【担当課室名】	事業の対象	業績指標名	H14	H15	H16
						事業費(千円)
			効率性指標 (3.5E-02は3.5 × 10 <sup>-2</sup> )			
1	競争力のある水田農業推進事業(宮城県米づくり推進事業) 【農産園芸課】	農業者	上位等級指標	84	60	80
			事業費(千円)	9,400	6,522	6,639
			効率性指標	8.9E-03	9.2E-03	1.2E-02
1	競争力のある水田農業推進事業(土地利用型作物に係る農業生産総合対策事業) 【農産園芸課】	生産組織	受益面積(稲麦大豆)	92,930	91,890	91,830
			事業費(千円)	83,164	48,650	20,432
			効率性指標	1.1E+00	1.9E+00	4.5E+00
1	競争力のある水田農業推進事業(経営体育成基盤整備事業) 【農地整備課】	汎用水田の整備	整備面積(ha)	1,319	1,518	1,790
			事業費(千円)	14,155,050	14,213,850	15,265,500
			効率性指標	9.3E-05	1.1E-04	1.2E-04
2	みやぎの水田農業改革支援事業(転作営農条件整備事業) 【農産園芸課】	営農組織等	麦・大豆作付面積	13,530	13,590	12,630
			事業費(千円)	103,469	100,036	80,246
			効率性指標	1.3E-01	1.4E-01	1.6E-01
2	みやぎの水田農業改革支援事業(ビジョン達成支援事業) 【農産園芸課】	協議会等	麦・大豆作付面積	13,530	13,590	12,630
			事業費(千円)	38,024	28,832	22,619
			効率性指標	3.6E-01	4.7E-01	5.6E-01
3	H16新規 米ビジネス推進事業(みやぎ米需要創出支援事業) 【農産園芸課】	農業者,農業者団体消費者	新規アイテム数			2
			事業費(千円)	1	1	722
			効率性指標	0.0E+00	0.0E+00	2.8E-03
3	H16新規 米ビジネス推進事業(おいしいみやぎ米ブランド力強化事業--リモートセンシング導入事業) 【農産園芸課】	農業者,農業者団体消費者	データ整備地区数			2
			事業費(千円)	1	1	7,815
			効率性指標	0.0E+00	0.0E+00	2.6E-04
3	米ビジネス推進事業(おいしいみやぎ米ブランド力強化事業--気象変動対応稲作推進事業) 【農産園芸課】	農業者	直播栽培面積(ha)	199	173	216
			事業費(千円)	8,210	6,474	8,760
			効率性指標	2.4E-02	2.7E-02	2.5E-02
3	米ビジネス推進事業(おいしいみやぎ米ブランド力強化事業--気象変動対応稲作推進事業)(再掲) 【農産園芸課】	農業者	晩期栽培面積	695	561	8,283
			事業費(千円)	8,210	6,474	8,760
			効率性指標	8.5E-02	8.7E-02	9.5E-01
			事業費(千円)			
			効率性指標			
			事業費(千円)			
			効率性指標			
			事業費(千円)			
			効率性指標			

施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化
------	---	-----	-------------------

活動によりもたらされた成果					施策実現までの道筋 【事業内容 目的】	施策概要
成果指標名	H14	H15	H16			
稲作作況指数	103	69	108	⇒	水稲生育診断会議に基づいた的確な栽培技術の指導・支援を行い、米の安定生産を図ります。	米、麦、大豆の競争を勝ち抜き、消費者に選択される高品質で安全・安心な米、麦、大豆の低コストによる生産を目指します。
農業算出額(稲、麦、大豆)(単位:億円)	1,052	875		⇒	農産物供給体制の確立と産地形成に必要な共同利用機械等の整備により稲、麦、大豆の高品質化・低コスト化を図り、安定供給と生産を拡大します。	
汎用化水田の整備面積(整備率)	62716ha (55%)	64216ha (57%)	66006ha (59%)	⇒	水田農業の低コストに対応するため、ほ場の大区画化と担い手への農地利用集積を推進します。また、麦・大豆の安定生産のための汎用化を推進します。	
農業算出額(単位:億円)	46,2	46		⇒	地域水田ビジョンに明確された担い手を含む営農集団等に対し、重点的に支援し、転作作物の本作化と水田農業の持続的な発展を図ります。	
農業算出額(単位:億円)	46,2	46		⇒	地域水田農業ビジョンに達成に向けた、体制整備や推進活動の取り組みに対して支援し、麦・大豆を中心とした産地づくりを図ります。	
新規アイテム販売店舗数			44	⇒	県内向けオリジナルブレンド米「みやぎっ娘」の需要拡大と、新形質米を活用した新規アイテムの開発を進め、より大きな需要の創出を図ります。	
タンパク含有率判別精度(対実測比)			+ - 0.34%	⇒	センシング精度向上させることにより、おいしい米を収穫前に面的に捉え、分別収穫・集荷・出荷していくことを可能とし、「プレミアム宮城米」の提供を通じて、ブランド力の向上を図ります。	
10a当たり収穫量(kg)	456	417	465	⇒	水稲生産者に対し、水稲直播栽培の技術向上及び定着化を図る団体を支援し、稲作経営の安定と産地としての安定供給を図ります。	
上位等級比率	84	60	80	⇒	水稲生産における晩期栽培を推進、定着を図ることにより、生育ステージの幅を拡大し、危険分散を図ります。	
				⇒		
				⇒		
				⇒		
				⇒		
				⇒		

# 施策・事業展開シート(C)

政策整理番号 17

対象年度	H16	作成部課室	産業経済部農産園芸課	関係部課室	産業経済部農地整備課
政策番号	2-5-2	政策名	消費者ニーズに即した産業活動の展開		
施策番号	1	施策名	米、麦、大豆の高品質化と低コスト化		

## C-1 評価結果から抽出される課題と対応策

【政策評価】施策群設定の妥当性、施策群の有効性  
 ・施策群は、主要作物(米・麦・大豆)の生産と流通を促進するものである。  
 ・市場が求める高品質な主要作物生産については、県、市町村、農協、生産者等が連携して進めるとともに、一層の低コスト化を図る必要がある。

【施策評価】事業群設定の妥当性、事業群の有効性、効率性  
 ・主要農産物の安定供給を図るためには、ほ整備等のハードと技術支援を一体に行うことが効率的と評価される。  
 ・売れる宮城米づくりをを実現するには、関連事業と連携して推進することが効率的と評価される。

【上記対応により、当該事業を縮小・中止した場合の影響】  
 ・該当なし

## C-2 施策・事業の方向性

### 施策の次年度(H18年度)の方向性とその説明

方向性	拡大	維持	縮小	その他
-----	----	----	----	-----

#### 【見直しの視点とその理由】

・激化している産地間競争に勝ち抜き、水田における主要農作物の安定供給を図るため、機械等の導入や技術支援、生産基盤等の整備や良品質麦、大豆の生産促進に向けたハード、ソフトでの支援が必要である。

#### 【次年度の方向性】

・米は消費量の減退の一方で外食、中食をはじめ新たなニーズとして拡大傾向する分野も存在するほか、消費者の安全安心志向に応える生産振興も求められている。特に「売れる米づくり」の実現に向けて、推進していく必要がある。さらに、「麦、大豆についても、米と同様に本県の主要作物として位置づけられており、消費者や市場等の多様なニーズに応えられる品質の生産を、コストの低減を図りながら推進していく必要がある。また、H16に検討した「水田農業改革に向けた取組計画」と今後新たに策定する「園芸特産振興基本計画」をベースに、各地域における「地域水田ビジョン」と連携を図り「売れる野菜・花き、麦、大豆等の新たな展開」に向けた新たな施策を打ち出していく必要がある。

### 主要事業・重点事業の次年度(H18年度)の方向性とその説明

事業番号	種別	事業名【H16決算見込額】	方向性	方向性に関する説明
1	主	競争力のある水田農業推進事業(宮城県米づくり推進事業)【6,639千円】	拡大	米政策改革大綱が決定され、平成22年度のあるべき米づくりの実現に向けて、積極的な取り組みが求められている。宮城県における米づくりの方向性について検討を加え、推進を図る必要がある。
1	主	競争力のある水田農業推進事業(土地利用型作物に係る農業生産総合対策事業)【20,432千円】	拡大	消費者ニーズへの対応、品質向上による需要の確保のため、平成17年度に制定された強い農業づくり交付金をもとに、産地の特色を活かした安全で安心な農産物の安定的な供給体制の確立を図るとともに、農産物の生産や産地形成に必要な共同利用機械等の整備を図る必要がある。
1	主	競争力ある水田農業推進事業(経営体育成基盤整備事業)【15,265,500千円】	拡大	平成16年度末の水田整備の実施見込みは、66,009haとなっている。平成22年度目標の75,000haの達成に向け継続して事業推進を図る必要がある。
2	重	みやぎの水田農業改革支援事業(転作営農条件整備事業)【80,246千円】	拡大	平成16年度から食糧法の改正により、従来にもまして需要に見合った米の計画生産とともに、需要に応える麦・大豆の本作化の推進を図る必要がある。
2	重	みやぎの水田農業改革支援事業(ビジョン達成支援事業)【22,619千円】	拡大	地域水田農業ビジョンに掲げる、麦・大豆を中心とした具体的振興作物の目標達成に向けて体制整備や推進活動を支援する必要がある。
3	重	米ビジネス推進事業(みやぎ米需要創出支援事業)【722千円】	拡大	本県の基幹農作物である水稲については、米政策改革大綱により、平成15年以降売れる米を提供することが産地として生き残る唯一の手段であり、県の水田農業の将来にとって不可欠であり、売れる「みやぎ米」づくりの実現を図る必要がある。
3	重	米ビジネス推進事業(リモートセンシング導入事業)【7,815千円】	拡大	「おいしい米」を、収穫前に面的に捉え、分別収穫・集荷・出荷することで、県産品米のなかでも最高級の「プレミアム宮城米」を創出するためにもセンシングの制度をより向上させることと、データの蓄積を図る必要がある。
3	重	米ビジネス推進事業(気象変動対応稲作推進事業)【8,760千円】	拡大	H15冷害を教訓に気象変動に対応できる稲作推進のため、直播栽培、晩期栽培等の作期分散技術の導入促進により宮城米の安定生産を図る。